

平成29年度第1回

まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

市民：前回2月のまちづくりふれあいミーティングの総括と今後違った形で皆さんが参加しやすいまちづくりふれあいミーティングの方法はあるのかを伺いたい。

市：前回2月のまちづくりふれあいミーティングの総括について、質問内容等をホームページに掲載している。また、個別の内容については担当課に照会して回答している。今後のまちづくりふれあいミーティングの実施方法については、ご意見を参考にさせていただき検討していく。

市民：市長から市民と忌憚なく話し合いをしたいということであったが、参加者が少なく残念である。次回以降は、区長会・社会福祉団体・防犯指導員・消防団等のいろんな団体に声かけをしていただきたい。内容のある集まりになるのではないかと思う。

富里市は自然豊かな農業都市とうたっている。また、ここは災害がなくありがたいと思っている。市長から未来の市の形として、富里市はこんな風に進んでいるなどの話を聞きたい。例えば、岩崎末廣別邸や友好都市などについての計画を伺いたい。少子高齢化がものすごいスピードで進んでいる。

市として5年後、10年後のシミュレーションをして対策を練っているの、市民に協力してもらいたいなどの考えがあるのか。

市：富里市の将来像というものはできている。古くからあるものや最近できたものもあるが、それに向かって進んでいくのが富里市である。それは皆さんの目からみてもわかるものである。七栄から北部は市街化区域であり、南部については農村地域である。農村地域には、国が500億円投入して進めている北総中央用水がもうすぐ完成する。国がこれだけ力を入れて南部は農産物が安定して取れるように利根川の水を引いてきているので、南部を市街化区域にすることは不可能である。南部の方には儲かる農業をしていただきながら緑を守っていく。富里の農家が農業で成り立たないということはない。富里の農家が成り立たないとなると、日本の農家が成り立たないというくらい富里の農家は進んでいる。土地の利用の将来像は決まっている。今、それに向けて我々が果たすべき役割を果たしているところである。現在のところ

順調に進んでいると感じている。昔、ペガサスプランというのがあったが、そのペガサスプランに沿って進んでいる。一時、人口が減ったが今では50, 100人以上にまで持ち直した。市街化区域である七栄から北は、それだけ発展してきている。南部の方は、市街化区域はないので農業生産でやっていく。洗心小学校を統合したが、子どもの数が減ったかというところでは減っていない。富里小学校、七栄小学校の子どもは増えている。富里市では毎年、300人以上の子どもが生まれているので保育園、幼稚園が足りなくなってきた。したがって、認定こども園として受け入れを増やそうとしてきた。富里市は、成田空港とともに発展してきたので、将来的にも成田空港の影響は大きいと思う。今、成田空港では年間発着回数50万回を目指している。そうになると何倍という経済効果になり、何倍という人々が勤めることになってくる。七栄方面の市街化区域の地域は、都市化してくださる。そのため南部とのバランスを非常に良く取らないといけないということが課題となってくる。

岩崎家末廣別邸についてですが、地方創生事業という国の公金事業、事業費の1/2を国費で賄ってくれるという事業の申請をして許可をいただいた。昨年からの三ヵ年事業として、隣接地の商業的な整備や別邸本体の整備、近隣公園の整備というハード面での認定を受けたので、順調に進めているところである。岩崎家ゆかりの地広域連携ということで、今の三菱という会社の創設者である岩崎彌太郎氏が生まれた高知県安芸市には生家があること、富里市には三代目の岩崎久彌氏の別邸があり、この岩崎久彌氏が農牧事業の先駆的事业の小岩井農場との縁があり岩手県雫石町と、この広域連携の枠組みを始めた時に、本邸がある東京都台東区も含め、広域で特に観光等で連携できるようなメニューができないかといった検討をしているところである。

三ヵ年事業のうちの二年目の主な目的として、建物自体の整備の設計関係や周辺の公園の設計関係を行っている。また、隣接地の商業的な施設をどのように整備していくかという基本構想の方針を今年度中に決めたいと思っている。広域連携については、今年度中にモニターツアー等の調査を終えて、どういう方向性がよいかを結論付けて、平成30年度に広域連携協議会というものを設立して、そこで観光の取り組みを行う。この平成30年度に向けた取り組みが佳境に入ってきている。

文化庁も日本遺産をオリンピックまでに100事業の日本遺産認定をしたいという募集をしている。我々の広域連携4団体もストーリーを磨いて日本遺産の認定を受けたいと思い動き始めている。

少子高齢化についてですが、富里市は少子化が大きく進んでいるということはない。洗心小学校が統合されたが、七栄地区においては減っていない。待機児童の数は4月当初は減ったが、1歳児2歳児については、毎月増加している傾向にある。10月1日に民間による保育園ができるということで準備しているが、この保育園ができたからといって待機児童がゼロになるわけではない。そのため、待機児童ゼロに向けての対策は今後も検討していきたい。

次に高齢サービスについてですが、現状として富里市は県内では高齢化率が低い。25パーセントを超えているが、それでも低い方である。今後一気に増えていくことが見込まれている。高齢者については介護保険と併せて3年ごとに計画の見直しとなっているので、現在その見直しを行っているところである。来年は新しい計画に基づいて進めていく。国の方から示されているところでは、高齢者の居場所づくりが取り上げられてきているので、こちらの方は計画に含まれてくるのではないかと考えている。

市民：市長の話から日吉台の方は市街化、南部については農村地域ということで富里市はいい方向に進んでいると思う。先程、市長は農家の人は農業でと言われていた。これからの富里市は国の政策待ちというわけにもいかない。それより市として夢を持ちたいというところで何かあってもいいのではないかと思います。

それから当市の少子高齢化について、高齢化率はたいしたことないので心配することはないとのことですが、危機感をもってこれから先、政策を立てて頂きたい。これから先は元気な年寄りを多く育てなければいけない。地域の組織についてもアプローチしているというのがあったらお聞きしたい。

市：富里は農業が基幹産業なので農業がだめになったら富里市そのものがダメになると思っているので、富里市の農業そのものがダメになることはないと思っている。グローバル社会になっているので成田に市場ができて海外に農作物を持って行こうと進んでいるところはある。ただ農作物はどこの国にいても日本よりも安い。給料そのものが安い国がほとんどで、日本は裕福な給料をもらい、素晴らしい野菜や果物を食べている。外国へ日本のものを持って行くと非常に高く、海外の方で買ってくれるのは裕福な人だけです。裕福な人は日本の農産物がいくら高くても買って食べている。富里市で出来た農作物を国内で販売されるくらい多くのものを外国に持っていくようなことは富里や日本の農産物では無理があると私は思っている。逆に外国の安い農作物が輸入されない方が日本の農家は潤うと思っている。

富里は農家が大きくやっているし、作物も研究して、収入が多いものをどんどん作っていますので富里の農家は大丈夫だと思っています。市としてどうするかということは色々やっているのですが、補助金という形だけではなく富里市では農家を励ます意味での方向でやっています。

高齢化率が高くないというのはこれまでの話であり、今後は追いつくだろうと思っていますので、かなり危機感をもって進めているところであります。

介護保険の関係については、このままいくと介護保険料が高くなってしまいます。そうはならないようにすでに準備をしておき、なるべく介護保険料はあげない方向でさらにサービスの低下のならない形を取りたいと思っています。

また、健康寿命を延ばすということは非常に重要な課題だと考えています。昨年からはじめた筋力アップ体操ですが、順天堂大学の協力を得まして若いうちから将来足腰がダメにならないようにと始めた事業です。年2回ありますので機会があれば参加いただけたらと思います。国民健康保険の部署や健康を伸ばしていくという部署などでの目標としては健康寿命を延ばすということを目指して、いろいろな事業を行っていく計画を進めているところです。

市民：4点お聞きしたい。

- ・コツコツちょきん体操がなぜ今年から有料になったのか。
- ・成田空港の発着時間が延長したことによって富里にメリットはあるのか。また反対の声があったのか。
- ・協働のまちづくり条例を推進してきて、一番良かったことはなにか。
- ・洗心小学校の利活用について、今後どのように考えているのか。千葉銀行の支店長に聞きに行ったところ、対応しようと思ったが銀行の考えとはあっていなかった。

市：カーフェーの問題というのは富里にはほとんど関係がありません。それは騒音がないからです。制限時間というのは内陸空港だから避けられない。世界には内陸空港で24時間という空港はいっぱいある。国際空港というのは24時間というのが本当は原則であった。しかし、内陸空港はどうしても騒音があるので24時間はできないので制限時間を設けたのである。この制限時間をどうするかというのは、今、成田国際空港そのものの問題であり、世界のどこの空港にも引けを取らないようなすばらしい空港になるために、制限時間を緩くしてもらいたいというのが希望であります。富里で反対ということは聞いたことがありません。その為、私は記者会見などどこへ行って

も反対する理由はないと答えている。ただ、空港周辺の4市5町で作っているのでチームワークを崩さず1つで行きたい。各市、各町によって違うので、富里市は騒音のある市と町に合わせていく。合わせていかないと騒音を受けている皆さんは大変である。富里市の代表で行くが、富里市だけの考えでは発言できない。

今は、騒音地区のある市町と足並みを揃えている。成田国際空港は日本で一番であるが、追い抜かれる可能性がないとは言えない。成田国際空港を良くしたい気持ちを持っているし、良くなってもらうことが富里にとっても良いことであると思っている。

協働のまちづくり条例をつくることを公約として掲げて、市民の皆さまに作っていただいた。おかげさまをもちまして防犯、また自分の街は自分で守ろうという意識と組織ができてきたことを力強く思っております。行政だけですべてを守るとするのは難しいので、地区ごとに力を合わせて守っていただき感謝をしています。

健康ちょきん体操についてはいろいろなところでやっているのですが有料になったかについては確認します。

洗心小学校については、今年の3月で歴史を閉じ、南小学区と統合することで進めさせていただいた。この件については、平成17年ごろから地元の方と協議をしながら進めてきた。学校としての使命は終わりましたが、その地域に根差す精神的なもの、洗心小がそこにあったというものは消え去るものではない。現在の管理状況として、教育的な財産ではないのですが、教育委員会が維持管理をしており、利活用については地元の皆さんで考えていただいている現状である。先程、お話のあった千葉銀行の件については認識がありませんが、テストケース的に照会があったのかもしれませんが。市の財産として建物と土地の利活用を前提に現状で維持管理が教育委員会で行っていること、地域の災害時の避難場所としても指定されておりますので、そう簡単に他の事業用に用いるというわけにはいきませんが、利活用については貴重な財産ですので進めなければならないと認識をしている。

市民：待機児童の関係で、人口の低下は見られないとの関連で、子どもという定員制の問題もありますが、小学1年生から中学3年生までは平成3年ごろをピークにして平成20年半ばくらいでは6割くらいに減ったと思われる。生産人口推移をどのように見ているのか教えて頂きたい。

南部地域包括支援センターとして、包括支援センターはどちらかという

高齢者の地域福祉に貢献するという趣旨だと思うが、地域的には教育委員会の3スクールゾーン（北中・富中・南中）は学区とは違うかもしれませんが、地域的にも時間帯的にも同じようですし、施設や交通機関なども重複するようなこともあるかと思いますので、最小限の投資で大きな成果が得られるのではないかと思う。行政間の連携がどうなっているのか教えてほしい。

市：今後の日本における人口減少や将来の高齢化は避けられない。それは富里市も同じで大きな課題だと思っています。幸い現在は25・6%ですが、今後30%の時代がきます。ことによると40%もあり得ます。しかしながら富里で救いになっているのは子供の数です。独身寮や家族寮もなくなって太陽光発電に変わって大きく人口が減少したこともあります。したがって富里市の高齢者率はどこまでいくかはわかりませんが、ことによるといい方向にいくと思っている。ちょうど日吉台の土地の価格が順調に上がっている。病院ができイオンタウンができた為伸びている。市街化区域には人がはりついて大きくなる。ただ農業地域については家が建たないのでどうしようもない。南部地域の方は人口が伸びないだろうと私も感じている。ペガサスプランでそうなっているので、富里の基幹産業である農家というのは南部地区において繁栄してもらえない。人口が減るとするのは目に見えていることで、これは日本中が減っていることである。したがってこれからは空港が大事なのである。外国人を日本にいらしたほうがいい。世界中ではものすごく人口が伸びる。幸い富里市は空港が近くにあるので、成田国際空港が発展していくことによってどうにか耐えられるだろう。日本がどうしても通らなければならないのは、高齢化と人口減少である。この対策については、各自治体が地方創生としてどこも取り組んでいる。何年後、確かに税金を払う人が少なくなり、高齢化と生産人口減が厳しいことが確かだろうが、それに備えていかななくてはならない。

児童生徒数の推移についてお答えします。この10年間で、児童数は約470名、生徒数は約130名減少している。しばらくは横ばいが続くのではないかと思います。直近では6月1日と7月1日で比べるとプラス5人という数字が出ています。ほぼ横ばいという状況であります。

ジョイントスクール構想の1つの取り組みとして施設整備的な部分で答えさせていただきます。まずジョイントスクール構想とは中学校を中心として学区をエリアに定め、小中連携による児童のケアというものが主眼となっているが、ここに来て各学校施設の延命化ということがテーマとなっている。国からの補助の出方が変わってきており、長寿命、大規模改修をして最終スパン

80年程度になりますが、それに耐えられるものかを調査しなさいということで昨年度まで調査をしておりました。その内容に基づいて各学校の施設を再度確認して、スケジュールにのせられるかを検討していくということになります。残念ながら先程ご提案があった福祉部門とのリンクというのはまだ入っておりません。補助事業制度の中で出されるものですので、その為の整備を求められるという状況であります。そうはいつでも整備しなければいけない部分もあります。空調設備については、すべての教室に整えることを主眼に、これからの3か年、考えてさせていただきたい。

地域包括支援センターは各中学校区を単位として、高齢者を対象としたさまざまな取組を行っております。他の分野との連携については現在のところ無い状況にあります。ただ、介護の分野になりますが、併せて地域包括ケアシステムをつくるよう言われております。介護事業所だけでなく医療機関であったり薬局であったり広い意味で高齢者が医療、薬、介護の連携をとらなければならないという部分で、うまく連携が取れるシステムを構築しているところでもあります。その中の役割として地域包括支援センターも地域に密着したものですので、地域の方々のご協力を得ながら進めているところです。そういったことから地域包括ケアシステム自体が各学校区とは限られず、市全体の話しになってくる。

市民：岩崎邸について計画はあると言っていたが、計画はいつ始まっていつ完成をするのでしょうか。

市：岩崎別邸の隣接地ということで約八千平米あります。これは三菱地所さんから別邸と一緒に御寄付をいただいたもので、その時の条件として別邸のガイダンス施設を含む地域の物産など地域振興に帰するようにしてもらいたいということで、寄付をいただいた当初は、イメージとして簡単にいうと「道の駅」を設置したらどうかと発想されておりました。商工観光課が担当している商業的な施設の計画の中で、どうも道の駅という名前が最初に出ておりましたので、それが固定観念として浸透した部分がある。

道の駅は国土交通省の指定を受けることになるわけですが、これとは別に商業的な施設を作ろうという考えをもっており計画を進めているところでもあります。今年度中にどういうものをつくるのかという土地利用計画の中に、物販施設やレストラン、ガイダンス施設ができるというところまで今年度中に進めたいと思っている。富里市の財政難ということもありますし、行政側だけの計画で商業施設を作りますと、将来2・3年もてばいいという施設であれば問題はありませんが、将来にわたり継続して商売を続けるという施設

ですので、行政の考えだけではなく商業者・観光協会・商工会・金融機関など経済団体と話し合いを始めている。今年度中に、民間主導でこういうのを作るといふところまで行きたい。

いつまでにといふことですが、現在のところ枠組みがはっきりしていませんので、おぼろげな目標となりますが、オリンピックまでになんとかしたいと考えているところです。

岩崎別邸には当然ですが建物があります。当初、庭園部分も荒れていたものをボランティアの方々にご尽力いただき、また職員も一緒に整備に取り組み、現在の庭園部分が何とか旧来の姿、大正末期から昭和初期の姿を復元しつつあるといふところですが、取組についてですが、計画に沿って進めているところですが、進める中で新たな発見などがありますと、それがどういう価値があるものかといふ議論がはじまってしまう。そういったことから、時間としては後ろに送るような形で流れてきており、建物自体もなかなか公開できない状況となっているところです。

現状では春と冬に特別公開といふことで、外から眺めて頂きながら職員が中の説明をさせていただくといふことで取り組ませていただいております。

昨年に「平成30年には公開したい」といふことでお伝えしました。庭園であればできるのではないかといふところまではきております。ただ、倒木の恐れのある木が何本かあり、まだ皆さんに安全に見て頂けるところまでには至っていない。建物につきましてもきちんとクリアしないと、中に入ってお話を聞いていただくような状況には至らないといふ段階でございます。

市民：私は富里で生まれ育ちました。本当においしい野菜が豊富です。農業にがんばってほしいなと思います。年金暮らしであってもみなさんおいしいものを求めている。道の駅だけでなく、そのわきに子供達が遊べるような場所とかも作って頂けたらなと思います。富里市に道の駅を早く作っていただき早くおいしい野菜等を販売していただけたらなと思います。

市民：富里の基幹産業は農業であるとは何回も聞いておりますし自分も認識している。しかし実態は憂いべき状況である。富里の専業農家の方で、今後も子供や孫まで自分たちがやっている農業を続けさせようといふ意欲を持っている農家の方が果たしてどれだけいるのか。歳を追うごとに耕作放棄地が増えてきている。従事している農家の年齢が上がってきている。今のままでは基幹産業とは言っていない。食べていけるようにならなければならない。しかしなかなか採算が合わない。大規模農業法人化をして精算効率を上げ採算性が十分取れるものにし、農家も一般のサラリーマンと同じように休みが

取れるような形を目指さない限り、今のままでは基幹産業として厳しいと思っている。

包括支援センターの体制について全くわからない。そこには専従の職員が配置されているのか、市民がそこにいけば何ができるのか教えてほしい。

市：労働者の高齢化・労働力不足で、農業を続けることができないという状況にあるということは事実であります。一番端的に聞くのが農地の集約化と労働力の確保、この2点が大きな問題で、第一に考えられる施策ではないかと認識しております。集約化については、富里の農家はそれぞれ技術者でありますので、腕に技をもった方々が、精魂込めて作っている畑の土を、ただ単に広くするというだけでは、旨いものはできないという方も実際に多い。水はけの問題だったり、耕作に適していない端の方の土地であったりというのは集約化が難しいということがございます。ただ徐々に進んでいるところであり、集約化についてはこれまでも取り組んでおりますが、これからも続けていきたいと思っております。

もう一つ、労働力ということですが、家族経営や専業農家であってもそういう状況であります。ましては兼業農家については、実労働が辛くしぼんでいく。一生懸命やっている農家でも労働力をどうやって確保しているかというところ、市のシルバー人材センターに労働力を求めている人もおります。外国人の研修制度を活用されている方もいます。外国人の労働力についてはあくまでも研修ということで3年間継続して雇うという前提であります。そうしますと、農繁期だけではなく農閑期も雇うしかないという問題がある。国の方でも農業の労働力特区制度というものもあります。具体的に何か施策がうてないかなと取り組んでおるところであります。

富里の中でも若い方々の新規就農をして下さる方は、自然農法であったり、果樹であったりと、野菜だけでなくさまざまな取り組みをしています。野菜でも付加価値をつけたりして商売している。農協だけを通しての市場出荷だけでなく、多様な取り組みをしております。行政も一辺倒の施策では太刀打ちできない。多様な農家に対応して応援できることをまず探して始めているところでもあります。

地域包括支援センターの職員については、社会福祉士、保健師、主任ケアマネージャーが配置されております。その他にもスタッフが配置されているところですが、全部は把握しておりませんが、市として生活支援コーディネーターもいらっしやいます。市でやっていたことと同じことをしておりますので、介護等のいろいろな福祉に関する相談ができます。

市民：市の15町歩の土地の話です。環境用地として埋め立てやリサイクル施設として必要な場所として話がありましたが、焼却施設の話はなくなったと思いますが、環境施設として活用する以外に残る部分が多いと思います。一刻も早くそこを活用してもらいたい。酒々井インターもでき、アウトレットもでき、市道01-008号線、また、市道01-007号線も進めている。富里に目を向けてもらう絶好の場所である。環境用地で使う土地はこことここで、残る土地はどこというよう配置など進んでいるか教えてもらいたい。

それと、岩崎邸の隣接地ですが、道の駅としての整備ではないということなので安心している。「道の駅」となると駐車場やバス停トイレなど一定の規模が必要でとても採算に合わない。

岩崎邸の一般開放に向け進めていくとバス停やトイレが必要となってくるが、有効な活用を進めてもらいたい。

市：15町歩のリサイクル施設についての位置づけですが、市道01-008号線側から左右に谷津がはいついて、深さが15m以上あるので、そこを平地にする為の見積りをとったが、造成費がかかるということで、そういう土地であるという事はよくご存じかと思います。その土地に向かって左側の谷津を使ってリサイクル施設を作ろうという基本計画を作りました。リサイクル施設だと騒音や、ゴミの施設なので周りから低いと目立たないという利便もある。5ヘクタール程度がリサイクル施設用地として旧来から使いたいと計画を立てました。全部を埋めないとしても莫大な造成費がかかります。また、リサイクル施設ですからカン・ビン等の分別をしたり、またそれを販売したりと、今の技術で最適なものとなると、プラント自体もお金がかかる。一番かかるのは造成費、それからオリンピックや東日本大震災の需要に引張られて、建設コストがひどく高い。今もまだ高騰しております。見積りをとっても半年後には同じ数量でも額が上がってくる状況で、今建設するのは適当ではないということで、すぐに建設を始めるといことはいまのところ考えておりません。5ヘクタールについてはリサイクル施設用地としての位置づけは残しておこうと考えております。

岩崎別邸の隣接地の話ですが、白か黒かという道の駅は作らないと言いましたが、そこに商業的な施設を作りたいというのは、これは観光の核であったり富里の物産を紹介する核であったり、観光協会と密接的に関わって富里の観光の拠点としたいというのが大前提にある。野菜を売らないのかというと、今の所決めておりませんが、生鮮物を売る事もスペースとしてはあるかも知れません。一番は岩崎別邸が整備されれば建物が整備され、公園が整備され、隣接で商業施設が整備されれば、閑静な雰囲気を活かしたところで、

皆さんに歴史物を見て頂いたり、散歩して頂いたり、お買い物をして頂いたり、お食事をして頂いたりとするコンセプトが一番素直なのかなという意見が多数でございました。ただし、まだ構想中であります。今年度中には方向性をまとめたいと思っています。

市民： 前回のミーティングでも言いましたが、道がどこも混んでいてどうしようもない。酒々井インターができてから、特に図書館の脇と中央公園の十字路の渋滞がどうしようもない。迂回するような方策など検討する余地はあるのか。聞くところによると酒々井インターから芝山を抜けて空港までみたいな話を聞いた。どのようなスタンスで道路行政をやっていくのかを聞きたい。

市： 現状の混雑の解消の方法として、人形台の十字路には右折レーンがあるが右折信号がないとかがあります。信号機の設置や増設、それから時間の調整などは、警察の方に現地を見てもらって検討はしておりますが、ただ良い反応ではない。もう少し右折信号だけでも協議して検討してもらえないかなと思っております。それだけでも緩和されるかと思えます。ただ、右折信号をつけるとその分、反対の通行にしわ寄せがいくことになります。朝晩がやはり一番混むので、交通量などを概算でカウントしてみたが、第二工業団地側からの台数も結構あるので、警察の方には、こちらが緩和されても反対が混雑する。そこをどう判断するかだと言われました。これからもう少し改善できないかなということで協議していきます。

渋滞が発生している箇所につきましては主に市道と市道の交差点ではなく、国道との交差点の部分で発生しております。大六天の交差点については、成田土木事務所が測量等実施しておりますので、県の予算のとれ具合にもよりますが、それに合わせ市の方も調整をしているところであります。

酒々井インターから酒々井、八街を抜けていく道路構想ということで、そのような構想はありますが、おもに県道を利用する構想となっております。広域化ということもありまして、関係市町村・県を交えながら今後も協議を進めていくこととなりますが、時間はかかることと思えます。

市民： 先ほどのジョイントスクールの話で、現行施設の改修等により維持管理をしていくという話であったが、その中で校舎や体育館の施設という意味で捉えたのですが、南小学校の敷地が国有地ということであるために、毎年使用料を払っているということであるが、これを市有地化することによって周辺との整合性が取りやすくなるのか、財政的なメリットがあるのか。他の小学校の教育施設でもそのようなことがあるのか。

先般、当番市として印旛地区の消防操法大会を成田市で行ったのですが、現状として、団員がかなり高齢化している。人数が確保されていない。また、地域の防災ということで、初期消火という部分で消防団の必要性が高いと思うが、特に南部地区で消防署の分署などの建設の計画はあるのか。また、そのようなことができるのかについてお話しいただきたい。

市：南小学校の敷地はおおよそほとんどの敷地が国有地であり、ご指摘のとおり、毎年使用料を国に支払っている。国は土地の処分を考えておきまして、土地は富里市で使用しているので、市で土地を購入できないかという話がありました。広大な面積があるので、このまま借りていた方がいいのか、または購入した方がいいのかという協議をしたことはあったが、現在話は進んでいない。他にも民地を学校用地としてお借りしているところがございます。

南部地区に分署などがあると対応が早くできるという話が消防本部でもあるが、現実的な財政面等を考えると難しい。また、消防団員の現在の平均年齢は37歳前後で、団員数は400人前後です。去年は403人であった。

当然今は、十分活動が可能であると考えていますが、今後は人数も減少していくので、消防団とも団員の確保について話し合っているところです。消防団員を増やすのはなかなか難しいですが、これからもがんばっていきたいと思っております。